

## 「冷暖自知」

岡山県 長安寺 住職 久保泰道  
ちようあんじ くぼたいどう

「冷暖自知」とは、冷暖房の冷暖に自ら知ると書き、水の冷たい、暖かいは、実際に触れてみないとわからないように、何事も経験しなければわからないという意味です。

私が小学生の頃、耳にタコができるくらい聞かされた言葉は、「食べ物は、大切にするんで」という祖母の教えです。その言葉に私は「そんなん、わかっとなるわ」と答えていました。その祖母は、私が大学生の頃に亡くなりました。

一年後、私は曹洞宗大本山永平寺に修行に行きました。学生時代の一人暮らしの自由気ままさとは打って変わり、永平寺での修行生活は、何もかも一八〇度違っていました。永平寺では、日々の食事も大切な修行です。器の扱い方や、作法、食事の前後 お唱えする数々のお経。修行に行つて間もない頃は、食べることもよりも、たくさんある作法などを間違えないことばかりに気を取られ、食事をしてても食べた気がしませんでした。しかし、食べ盛りの二十代前半ですから、毎朝お粥だとお腹もすぐに減ります。

ある時、私は漬物を給仕する係になりました。当然ながら、給仕にも作法があります。間違えると怒られるので、緊張しました。そんな思いで、漬物を給仕していると、同期の修行僧が、私に何かを目で訴えかけているようでした。よく見てみると、彼より隣の人の沢庵の量が、少し多かったことに気がつきました。食事をとる僧堂で喋ってはいけないので、私は 心の中で「ごめん」と謝りました。お腹をすかせていた修行僧の気持ち、よくわかるからです。

「お腹が減る」とは、どういうことなのか。飽食の時代に育ち、食べるものに一度も困ったことのない私には、初めての経験でした。この時、いつか祖母の言った「食べ物は、大切にするんで」の意味が、体に沁みたとような 気がしました。明治生まれで、戦前、戦中、戦後と、食べ物の無い時代を 過してきてきた祖母だからこそ、リアルな言葉だったと思います。何事も 体験してみないと、本当に知るといふ事はできない。まさにそんな体験でした。